

## 町指定文化財(史跡)

しも あくつやかだ

「下壱館跡」  
(別称 櫻山)

指定年月日／昭和四八年一月二〇日

所在地／城里町下壱  
管理・所有者／個人

町指定文化財「下壱館跡」は、石塚城跡の北方九〇〇メートルに位置しています。一帯は標高一九メートル程の沖積平地で、館跡が存在する場所だけが小高い丘(比高約八メートル)となっています。

この地域は「堀の内」と呼ばれ、地名的にも館跡と関係深い場所であることを示していますが、丘の上は墓地となり、丘の周辺も宅地化が進んでいるため、館に関係する遺構は明瞭ではありません。

『新編常陸國誌』(江戸～明治時代)

は、下壱館跡について「①下壱村に存する②規模は、南北四〇～六〇メートル・東西一六〇～一八〇メー

トル③東西に堀と土居が残る④

う⑤石塚宗義が築き、宗義が石塚

城に移った後は、家臣の桐原氏が

居住した⑥今も桐原氏の子孫が同

村に住し、石塚義國(八代)から桐



▲下壱館跡(南方向から)

## 俳句

思出は今も鮮烈冬薔薇

今瀬 多代美

太陽のまぶしきほどに冬ざるる

瀬谷 博子

注連飾り燭に新藁句ひけり

田口 勝元

仏間まで朝日煌々お元日

森 静江

かまきりの卯に光冬木の芽

仲田 まちゑ

春日ざし潮騒誘ひきらめいて

岩下 金司

御降りや仙人掌の子の福々と

飯村 昭子

竹内 幸子

寺門 孝子

## 文芸しろさと

## 短歌

原勘解由左衛門に宛てた、天正二

（五七四）年付けの官途状を伝え  
ている」ことを記しています。

石塚氏初代となつた宗義は、佐  
竹氏九代当主義篤の三男です。宗義は、康安二（三六二）年に父か  
ら石塚郷などを譲られていますので、下壱館もこの頃に築かれたも  
のと思われます。

なお、宗義は小堀義躬や大山義

孝とは兄弟関係にあり、共に那珂

川中流域を支配しました。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎ 029-288-3135

## 川柳

窓ごしに風を見てをり室の花

瀬谷 博子

太陽のまぶしきほどに冬ざるる

富田 多蔵

注連飾り燭に新藁句ひけり

飯村 孝一

仏間まで朝日煌々お元日

車田 綾子

かまきりの卯に光冬木の芽

寺門 孝子

春日ざし潮騒誘ひきらめいて

川原 清

御降りや仙人掌の子の福々と

飯村 昭子

竹内 幸子

寺門 孝子

